

	小樽商科大学 社会科学分野
学部等の教育研究 組織の名称	商学部（第1年次：465名） 【夜間主】（第1年次：50名） 商学研究科（M：10名 D：3名 P：35名）
沿 革	明治43（1910）年 小樽高等商業学校 設置 昭和24（1949）年 小樽商科大学商学部 設置 昭和46（1971）年 商学研究科 設置 平成16（2004）年 商学研究科アントレプレナーシップ専攻 設置
設置目的等	昭和24（1949）年に、現代社会の複合的、国際的な問題の解決に貢献し うる広い視野と深い専門的知識及び豊かな教養と倫理観に基づく識見と行 動力により、社会の指導的役割を果たす品格ある人材の育成を目的として、 商学部が設置された。 昭和46（1971）年に、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、研究者と しての基礎的教育を行うのみならず、現代社会の諸分野において貢献し得 る高度な専門的知識を有する職業人の育成を目的として、商学研究科が設 置された。 平成16（2004）年に、新規事業開発や企業・自治体等の組織改革など広 く「革新」を実行しうる MBA ホルダー＝ビジネスリーダー及びビジネスイ ノベーターの養成を目的として、アントレプレナーシップ専攻（専門職大 学院）を設置した。
強みや特色、 社会的な役割	【総論】 小樽商科大学における社会科学分野においては、真理の探究を図るとと もに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してき た。 引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかに される強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織 の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。 【教育】 (学部) ○ 社会科学の学問分野の教育研究を通じて、実学教育の実践により、幅 広い知識を修得し、異文化への理解、人間と社会への理解を身に付ける と同時に、日本語と外国語を用いたコミュニケーション・スキル、プレ

ゼンテーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。

- このため、実践的な語学教育や、ICT 機器を活用した双方向型授業・課題解決型授業を取り入れたアクティブラーニングを実施するなど、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成している。
- 今後、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等の充実を図るとともに、グローバルな視点を持ち、北海道経済の発展に貢献できる人材育成を目的とする教育プログラム（コース）を構築するなど、学士課程教育の質的転換に取り組む。

（大学院）

- 社会に生起する諸問題を多様な側面から分析し解決策を引き出す能力（研究能力）を育成することによって、知識基盤社会で生き抜くことのできる高度専門職業人・研究者を養成する。
- このため、国際商学コースをはじめとして、社会科学における多様な研究テーマをグローバルな視野で研究できるコースを設けるとともに、企業や組織の戦略立案及び組織マネジメントにおける高度な理論や分析能力を体系的に修得できるカリキュラムを構築している。
- 今後、学部の教育課程及び教育研究組織の見直しに合わせた教育課程等の検討を行うなど、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

（専門職大学院）

- 組織が抱える問題の本質を捉え、解決策を策定する問題解決能力、意思決定能力や、自分のアイデアを実現可能なプランに練り上げる新規事業計画の作成能力を有する専門職業人を養成する。
- このため、ビジネスに関する実践的な分析・戦略の検討・計画立案を行う授業（ビジネスワークショップ）の実施や、他大学院との連携による MBA 特別コースによる教育を行っている。
- これらの取組を通じ、北海道地域経済の活性化に貢献する組織として「一般社団法人北海道 MBA コンサルティング協会」の設立につながっている。
- 今後、医療経営や公共経営などのカリキュラムの充実や、これらに関連する機関や企業等との連携を図るなど、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、社会人の学び直しや実学教育の役割を果たすという専攻設置の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

【研究】

- 社会科学分野における研究実績をいかし、地域の課題解決・文化の発展に組織的に取り組む。
- 特に、産学官連携拠点としてビジネス創造センターが中心となり、課題に対する具体的で実践的な解決策を提供している。
- 今後、学部・研究科と連携するビジネス創造センター等の機能強化を図り、研究と地域貢献の体制を強化するなど、北海道経済の活性化に寄与する研究を一層推進する。

【その他】

- 地元の自治体や経済団体等と組織的に地域連携活動を推進するために「小樽商科大学地域連携会議」を組織し、北海道、札幌市、小樽市などの関係団体との意見交換を通じ、大学の研究成果を社会に還元している。あわせて、地域インターンシップ型講義（地域連携キャリア開発）や体験型生涯学習プログラム（小樽商科大学シニアアカデミー）、市内の小中学生の学習支援を行う「樽っ子サポート事業」等を展開している。
- オタゴ大学（ニュージーランド）を始め 18 大学と学生交換協定を締結しており、留学先での授業料を免除するなどの制度の導入や、小樽市と協力してマーケティングの修得と観光親善に貢献することを目的とした海外大学留学制度を設けている。
さらに平成 12 年度から交流してきたロシア極東国立総合大学に加え、平成 25 年度からはサハリン国立大学（ロシア）と相互理解覚書を締結し、北方圏の大学との学生交流を強化する取組を進めている。
- 全学的な機能強化を図る観点から、18 歳人口の動態や社会ニーズを踏まえつつ、学部・大学院の教育課程及び組織の在り方、規模等の見直しに取り組む。